

## 中学2年3組 国語科学習指導案

指導者 籠橋 剛

グループで比べ読みを行った結果をもとに、短編小説の構成や表現の工夫の特徴とその魅力について学級全体で検討したことは、文学的文章の批評的・評論的な読み方を身に付け、小説世界の魅力についてより多面的に思考することに有効であったか。

### 1 単元名 「形」の魅力にせまろう ～比べ読みで楽しむ小説世界～

#### 2 授業の構想

(1) 本学級の生徒は、おおむね積極的に国語の学習に取り組んでいる。学級全体の場での自己表出には抵抗を感じる生徒も少なくないが、小集団での話し合いや表現活動には進んで取り組める生徒がほとんどである。また、毎朝10分間の読書活動でも、生徒は自分で本を用意し、静かに読書に取り組んでいる。しかし、読書傾向としては漫画や映画のノベライズ版やケータイ小説など、自分の興味に偏った平易な文章が多く、工夫された構成や巧みな表現をもつ文章への接触は少ないというのが現状である。

- ①老人はエメラルドをもらったけれど、大切なぼうしを取られてすごくショックだったと思います。
- ②地球人と宇宙人の価値観のちがいがおもしろかった。
- ③同じものでも、それを使う人、見る人によって、全く別の受け取り方ができる。
- ④世間一般の目から見れば、宝石を選ぶ人のほうが圧倒的に多いだろう。しかし、それは他人事を選択であり、老人にとってはどうなのだろうか。私にも、五体満足と引き替えにしてもいいくらい大事なものがある。帽子の代償は老人にとって宝石で済まされる問題なのだろうか。

これは、星新一のショートショート作品「ボウシ」を授業で扱った際の初発の感想である。「ボウシ」の内容は、老奇術師が唯一得意とする手品を見た宇宙人が、手品の道具である帽子を何でも生み出せる道具と勘違いして奪い、代わりに別の星で拾ってきたボール大のエメラルド（別の星にはゴロゴロ転がっており、宇宙人にとってはただの石ころに過ぎない）を置いて立ち去る、というものである。

①の感想には、話の筋に自分自身も入り込み、登場人物の心情に寄り添う姿勢が見られる。また、②、③では、作品そのものとは一定の距離を置き、読者としての立場から客観的に感想を述べようとする姿勢が見られる。中には、④のように世間一般の視点や自己の経験を引き合いに出し、自分の考えを形成している生徒もいる。ただ、風刺の効いた描写や、結末のその後を読者に考えさせる構成など、星新一作品独特の特徴に目を向け、作品を批評的・評論的にとらえる段階にはいずれの生徒も至っていない。

文学的文章を読み味わう際には、登場人物の関係や心情のみならず、文章そのものの構成や舞台設定、さまざまな表現の工夫などにも意識を向け、工夫の背景にある作者の目的や意図についても考えを巡らせるなど、いろいろな角度から批評的な読みを展開できることが望まれる。そうして形成された個々の読みを授業の場で意見交換し合うことで、今まで気付かなかった新しい視点から文章を読み直すことが可能になり、個々の読みに広がりや深まりが生まれるからである。また、巧みな表現や練られた文章構成など、工夫そのものから感じ取れる文学的文章の魅力についても味わってほしいからである。

(2) 本単元では、中心教材として扱う短編小説「形」と他の短編小説との比べ読みを行うことで、文章構成や表現の特徴・工夫に注目し、その魅力に気づくとともに、個々の読みを広げ深める土台としての文学的文章の批評的・評論的な読み方を身に付けることをねらいとする。

「形」は、以前より多くの教科書に所収されている菊池寛の短編である。槍の名手である中村新兵衛が、初陣の若い侍に羽織と唐冠を貸し与えたところ、若い侍が活躍した一方で、黒革おどしのよろいに身を包んだ新兵衛は敵に討ち取られてしまう、という内容の、教科書3頁程度の短さながら、構成や表現の面でも多くの魅力をもつ作品である。しかし、戦国時代という舞台設定に伴う語彙や言い回し、勸

善懲悪といった単純な構図ではとらえ難い主題など、生徒がこれまでの国語学習で数多く親しんできた、登場人物の関係性や心情に自己を投影し、想像を広げつつ読み味わえる物語文とは異質な作品でもある。

本学校園の国語科では、思考力・判断力を中核として、読みの力・表現力を総合的に高めていくことをめざしている。そして、中等部（小6～中3）の各領域における思考力・判断力・表現力を、相手や目的に応じて批評しながら聞くこと、構成や表現を工夫して書くこと、知識・体験と関連づけて批評的に読むことであると設定し、これらを通して自分の考えを深めていくこととしている。したがって、中学2年生という発達段階をふまえたとき、文章の構成や表現に注目し、批評的・評論的に作品を読み解く視点を得ることは、思考力・判断力・表現力を高めていく上で重要な要素であると言える。

構成や表現の工夫に富み、個々の読書経験では触れにくいであろう「形」という作品との出会いは、生徒が今まで十分には意識していなかった文学的文章の批評的な読み方に気づく良い機会であると考えられる。その際、文章の構成や表現の工夫にポイントを絞って考えるために、本単元では「形」と他の作品との比べ読みを行う。相違点・共通点を比べ読みによって明らかにしていくことで、生徒自らが「形」という作品の持つ構成や表現の特徴・工夫に気づき、その意義や味わいについて考えることができる。これにより、作品を批評的・評論的に読む読み方が身に付き、新たな視点から作品を読み直すことによる生徒の思考力・判断力・表現力の高まりへとつなげていきたいと考えている。

(3) 本単元で生徒に考えさせたい「形」の構成や表現の工夫としては、以下のような点が挙げられる。

- ・題名（「形」とは何を表すかを読者に考えさせつつ、話の展開や主題について暗示している。）
- ・舞台設定（戦国時代の戦場という日常とかけ離れた場を設定し、話全体の緊張感や主題の重みを演出している。）
- ・人物設定（槍の名手の新兵衛と初陣の若い侍を対立させ、装束と戦の結果が対応する話の展開を明確にしている。）
- ・文章の構成（「形」と「中身」、猩々緋と黒革おどしなど二極対立の構図を組み合わせている。全体も、新兵衛の強さを強調した前半と新兵衛が死ぬ後半との対立構成となっている。新兵衛の死が鮮やかな逆転劇となるよう、クライマックスに向けて綿密な伏線が張られ、話を唐突に打ち切ることで読者に考えさせる構成になっている。）
- ・描写（中、長編小説のような情景描写を極力排し、主題をクローズアップしようとしている。）
- ・視点（3人称で話を進めることで、読者が話の展開を俯瞰的な視点から読むように仕向けている。）
- ・語彙・語感・文体（時代設定に即した語彙を用いて、表現に統一感を出している。簡潔で歯切れのいい文末、クライマックスの短文の連続などで、急展開する話の緊張感を効果的に表現し、主題を明確に読者に伝えている。）

ただし、これらを教師が知識として伝達するのではなく、生徒が学習の中で気づき、読み取った実感を持てるような単元構成が大切になってくる。そこで、第1次では、まず短編小説という形に慣れること、また、文章の構成や表現の工夫に生徒が目をつけるための意識づけを行うことを意図して、「形」以外の短編小説を読む活動を設定した。ここでは作品同士を直接比べ読みはしないが、さまざまな作品を読む中で、作者、舞台設定、内容こそ違えど、短編小説には前述したポイントのような共通項があることをある程度見いだせるだろうと考える。あくまで第2次につなげるための学習であるので、作品の主題には深入りしすぎないように配慮しつつ、生徒の率直な感想や疑問を取り上げ、問い返していくはたらきかけを重視し、生徒の気づきをもとに構成や表現の工夫に注目できるようにしていきたい。

これを受けて、第2次では、中心教材の「形」を扱う。ここで大切になるのは、比べ読みする副教材の選定と、生徒が取り組む学習課題の設定のしかたである。「形」自体が非常に短い作品であるため、ここで比べ読みをする副教材には星新一のショートショートを用い、少人数のグループに分かれて学習課題を検討する。星新一の作品は、各編が非常に短く、文章も平易であるため、「形」との比べ読みの素材として適しているが、ここでは副教材として3編を用意し、各グループに異なる学習課題を設定することで、いろいろな角度から比べ読みを行えるようにしたい。また、学習課題については、「形」を通読し、内容を概観した上で、気付いた点や疑問点を挙げさせ、それをもとにグループごとの課題を設定する。その際、前述した「形」のポイントをおさえた気付き・疑問となるよう、第1次で学んだことを想起させたい。実際のグループ活動の場面では、似た考えや相反する考えを持つ生徒同士を意図的に同じグループに組み込み、生徒が活発に意見を交換しながら比べ読みが展開できるようにしたい。また、共通点と相違点を整理するワークシートを準備して、比べ読みをスムーズに進められようにしたい。

第2次の3時間目である本時は、比べ読みのグループ活動を受けて、学級全体での学び合いを行う場面である。「形」とどの作品のどんな点を比べて読んでいるかはグループごとに異なるため、まずそれぞれの課題の検討結果を発表し、情報を学級全体で共有する。その上で、「形」の構成や表現のどんな点が優れていて魅力的であるのかを検討していく。ここでは、「形」の構成や表現の工夫について、他のグループの発表内容やそれを受けた発言など、他者の考えに触れることで、生徒が自分単独では気づかなかった作品の読み方に気づき、既存の読み方が揺さぶられる場面を大切にしたい。そのために、個々の発言内容を認め、尊重し合うことを基本としつつ、説明が言葉足らずであれば問い返し、発言が少なければ今までの学習を想起させるなど、展開に応じたはたらきかけを大切にして、作品の工夫や魅力についていろいろな角度からオープン・エンドの形で検討できる時間にしていきたい。

第3次では、単元のまとめとして、「私の考える『形』の魅力について」という題で評論文を書く活動を設定した。これは、学び合いの内容を個の読みに返す、すなわち、表現や構成の工夫についての学びが、批評的・評論的な読み方としてそれぞれ身に付いているかを、生徒と指導者がともに確認するための営みでもある。感想文ではなく評論文とすることで、学んできた表現や構成の工夫をふまえ、新たな視点から作品と向き合い、「形」の魅力について自分なりに考えを深めてほしいと願っている。

### 3 展開計画（全10時間 本時7/10）

次	主な学習	時	具体的な学習内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	短編小説の特徴や工夫をつかむ	1 2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「茶わんの中」（小泉八雲）を読み、内容や特徴について確認する。</li> <li>・「サーカスの馬」（安岡章太郎）を読み、内容や特徴について確認する。</li> <li>・星新一のショートショート作品を読み、内容や特徴について確認する。</li> <li>・短編小説に共通する特徴や工夫について検討する。</li> </ul>
2	「形」の魅力について考える	5 6 ⑦ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「形」を読み、内容について概観し、気付いた点や疑問点をまとめる。</li> <li>・「形」と星新一のショートショート（3篇）について、グループに分かれて比べ読みの学習課題を検討する。</li> <li>・「形」の構成や表現の工夫のどんな点が優れていて魅力的なのか検討する。</li> </ul> <p>◇「形」の表現や構成の工夫について他グループの発表や他者の発言を参考にし、新たな視点から作品の魅力を見いだしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「形」の主題について検討する。</li> </ul>
3	「形」の評論文を書く	9 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私の考える『形』の魅力について」という題で評論文を書く。</li> <li>・評論文を相互に鑑賞し合う。</li> </ul>

### 4 評価計画

次	時	国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
1	1 2 3 4	作品を進んで読み、共通する特徴や工夫を考えようとしている。			作品の構成や表現に着目し、短編小説独特の共通項を見つけている。	抽象的な概念や多義的な意味を表す語句について理解している。
2	5 6 ⑦ 8	比べ読みを進んで行い、作品の魅力について考えようとしている。	構成・表現の共通点や相違点、工夫について、他者の考えと比べながら自分の考えを述べている。		比べ読みを通して批評的な読み方を身に付け、新たな視点から作品を読み直し、考えを深めている。	文章の構成や、一文の長さ、文体に着目し、言語感覚を磨こうとしている。
3	9 10	評論文の鑑賞に進んで取り組んでいる。		構成や描写を工夫して自分の考えを評論文にまとめている。		文末表現を整え、漢字を適切に使っている。

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

「形」と星新一のショートショートについて、グループで比べ読みを行った結果を学級全体で検討し、「形」の構成や表現の持つ魅力を多面的に考え、批評的・評論的な読み方を身に付けることができる。

### (2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">友だちの考えを参考にしながら「形」の構成や表現の持つ魅力について考えよう。</div> <p>2. グループごとの比べ読みの学習課題について、前時に検討した結果を発表する。</p> <p>3. 「形」の構成や表現のどんな点が優れていて魅力的なのかを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の展開から主題まで幅広いイメージを含ませるように、あえて題名を「形」一文字にしている点が工夫されている。</li> <li>・新兵衛が討たれた瞬間で話が終わるので、続きはどうなるのか、作者は何を言おうとしているのかと、読者をいやでも考えさせる構成になっている。</li> <li>・前半に新兵衛の強さが十分アピールされている分、後半で新兵衛があっさり討たれる展開が意外で、話に引き込まれてしまう。</li> <li>・前半から、強いのは新兵衛ではなく猩々緋と唐冠だと書いてある部分がある。新兵衛の死に向けての伏線の張り方がとても上手だ。</li> </ul> <p>4. 本時のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動では題名の付け方を比べ読みしたけれど、他の班の発表を聞いて、人物の設定や文体の工夫にもなるほどと思う点がたくさんあった。</li> <li>・いろいろな人の意見を聞いたけれど、やっぱり工夫された文章の構成が一番の魅力だと思う。でも、言いたいことをどうやって伝えるか、作者はいろいろなしかけを使って作品を書いていることがよくわかった。</li> </ul>	<p>・前時の段階で発表内容や発表者の分担を確認しておき、スムーズに進行できるようにしておく。</p> <p>・生徒の発言に対して、疑問点や根拠などを問い返し、思考を掘り下げていく。</p> <p>◎優れて魅力的である根拠として、その工夫の背景にある作者の意図（何をねらってその工夫をしたか）を考えさせるようにする。</p> <p>・発言の幅が広がりにくい際は、第1次の学習を想起させ、いろいろな視点から考えるよう提案していく。</p> <p>◎互いに自分単独では気づかなかった読み方に気づき、多面的な読み方を身に付けられるよう、読み方を集約はせず、オープン・エンドの形で検討していく。</p> <p>・ノートに感想をまとめるよう指示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（読む能力）</p> <p>表現や構成、作者の意図などについて、他者の考えと比べながら自分の考えを述べ、新たな視点から作品の魅力について考えを深めることができる。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 発表・ノート】</p> </div>